

課題部会再編に向けて

1. これまでの経過

- 令和5年11月28日（火） 課題部会推進協議会
- ・「令和6年度は現在の13部会を継続する。ただし、令和6年度の研究を単年度研究とし、1年間をかけて部会の再編を検討する」ことが承認される。
 - ・課題部会の再編にあわせて「(専門部会) 障がい児教育部会の名称について、検討する」ことが承認される。
- 令和6年 1月12日（金） 課題部会再編に関わるWebアンケート（部会役員・全会員）実施
- 4月11日（木） 役員研修会・定期総会
- ・新部会編成とすることの承認
 - ・推進準備協議会設置の承認
 - ・障がい児教育部会の名称検討についての承認
- 5月23日（木） 第1回課題部会推進準備協議会
- ・部会役員、全会員アンケートの分析
 - ・今日的な教育課題の洗い出し
- 6月27日（木） 第2回課題部会推進準備協議会
- ・課題部会再編の原々案の作成
- 7月18日（木） 課題部会推進協議会
- ・推進準備協議会から提出された原々案を原案として承認

2. 部会アンケート・全会員アンケートの分析概要

(1) 次年度の第一希望として多かった回答（50人以上が選択したもの）

順位	研究内容	人数	割合	現部会
1位	13. ICT機器、図書館、インターネットの活用	72	6.4	情報教育
1位	4. 表現・遊び・ものづくり（小・中）	72	6.4	集団づくり
3位	31. 生徒指導（中）	69	5.2	生徒指導
4位	12. 情報活用能力の育成	62	5.5	情報教育
5位	24. 読書活動	58	5.2	文化活動
6位	2. 学級学年経営（小）	57	5.1	集団づくり
7位	15. 校務の情報化（校内環境整備）	55	4.9	情報教育
	18. 既存教材や外部人材の活用、開発教材	44	3.9	国際理解教育
	6. 自己実現を支援し、自他を尊重する教育の在り方	40	3.6	生き方
	27. 通常学級における学習支援	40	3.6	特別支援教育
	29. 校内支援体制	40	3.6	生徒指導

(2) 研究したい内容として多かった回答（第4希望までで1000人以上が選択したもの）

順位	研究内容	人数	割合	現部会
1位	13. ICT機器、図書館、インターネットの活用	249	7.5	情報教育
2位	27. 通常学級における学習支援	166	5.0	特別支援教育
3位	9. ICTを活用した授業づくり	155	4.7	道徳
4位	33. いじめ・不登校	147	4.4	生徒指導
5位	2. 学級学年経営（小）	137	4.1	集団づくり
6位	37. 教職員の個別最適・協働的な学び（校内研修）	135	4.1	
7位	15. 校務の情報化（校内環境整備）	131	3.9	情報教育
8位	4. 表現・遊び・ものづくり（小・中）	123	3.7	集団づくり
9位	12. 情報活用能力の育成	119	3.6	情報教育
10位	28. 通常学級における集団生活支援	116	3.5	特別支援教育
11位	14. 情報モラル・マナー	112	3.4	情報教育
	35. インクルーシブ教育	91	2.7	
	36. ウェルビーイング（子ども・教職員）	91	2.7	

傾向

- ・情報教育部会の研究内容である「ICT機器活用」「情報活用能力の育成」「校務の情報化」などの研究を求める声が多い
- ・集団づくり部会の研究内容である「表現・遊び・ものづくり」「学級学年経営」や生徒指導部会の研究内容である「生徒指導」「いじめ・不登校」に関する研究を求める声が多い
- ・特別支援教育部会の研究内容である「通常学級における支援」に関する研究を求める声が多い
- ・新しい選択肢の中では、「教職員の個別最適・協働的な学び」「インクルーシブ教育」「ウェルビーイング」に関する研究を求める声が多い
- ・現研究内容のどの分野にも一定数の希望者が存在しているため、現研究内容と教職員が希望する研究内容はある程度一致しているといえる

(3) 課題部会再編に関わる意見（抜粋）

ア. 賛成・期待

- ・今の時代に合っているもの、必要としているもので再編してよいと思います。
- ・昨今の教育現場に必要なものであれば、研修の意味・意義があるため、ぜひ再編してほしい。
- ・教科の枠を超えて課題について研究を深めることは他の地域ではありませんでした。
- ・専門部会も含め、石狩管内の宝だと思っています。
- ・町外の先生方と情報交流する機会がなかなかないので貴重な時間です。

イ. 賛成・維持

- ・現行通りで良いと思います
- ・再編の必要性をあまり感じていないが、求める声が多ければやむなし。
- ・大きな課題点を感じなかったため、今年度同様でよいのではないかと思いました。

ウ. 賛成・改善案

- ・役員選出も大変ですし、所属部員も少なくなっているので、再編して部会数を減らすのは仕方ないと思います。
- ・部会の数を減らして（統合して）もよいのではないかと思います。
- ・200人以上の部会も4つほどありますが、午後日程で参集することも考え、すべての部会が南北ブロックに分かれた開催が望ましい
- ・職種に配慮
- ・役員のなり手がいない。
- ・役員の方々や部会員各々に負担がかからないようにする
- ・役員の負担が大きすぎる
- ・課題部会の数が多くなるほど、一つの部会に参加する人数も減り、話し合いが深まらないことも考えられる。
- ・学校図書館と情報 ICT とふたつに今はわかれています、今後は両輪で行っていく必要がある
- ・部会を再編し、部会数が減った場合、形骸化が進まないか心配です。
- ・情報教育部会は人数が多すぎて、運営に困難がある
- ・少数の部会員で運営が大変な部分はないか心配
- ・部会の数を減らすことで、部会の人数が増えて運営が大変になることが予想されます。
- ・もっと部会数を少なくしてもよい
- ・人員配置を集中して労を削減するのは合理的
- ・『校務の情報化(校内環境整備)』ですが、校内情報教育担当者と事務職員とが混在していて話し合いが全く噛み合いませんでした。
- ・重複する内容を含むところがまとめられそう
- ・特別支援部会という名称でよいのか
- ・ただ、レポートを出し合う課題部会にならないように、教員一人一人が主体的に活動するにはどうしたらよいか

エ. 賛成・要望

- ・無くせない大切な部会もあるのではないかと
- ・道へき複連の関係もあって無くせない部会もある
- ・簡素化やスリム化も大事ですが、決して蔑ろにならないよう全会員で意識していきたい。
- ・その部会が少人数であっても、その部会の歴史や意義があると思うので、そのことも考慮していただけたいです。
- ・平和憲法の理念を教育実践に活かすため、平和教育（人権・平和）部会を存続させてほしい。

3. 今日的な教育課題の洗い出し

課題部会推進準備協議会において、令和5年6月に閣議決定された「教育振興基本計画（R5～R9）」を拠り所として、以下を今日的な教育課題として洗い出した。

- ・持続可能な社会の創り手
- ・ウェルビーイング
- ・SDGsの実現に貢献するESD推進
- ・個別最適・協働的学びの一体的充実
- ・インクルーシブ教育
- ・多様な教育ニーズへの対応
- ・地域社会の国際化への対応
- ・多様性、公平・公正、包摂性ある共生社会の実現
- ・ICT等の活用
- ・地域コミュニティの基盤形成
- ・教育DX
- ・コミュニティスクールと地域学校協働活動の推進
- ・キャリア教育・職業教育の推進
- ・道徳教育の推進
- ・発達支持的生徒指導の推進
- ・いじめ等への対応
- ・人権教育
- ・体験・交流活動の充実
- ・読書活動の充実
- ・伝統や文化等に関する教育の推進
- ・文化芸術による子供の豊かな心の推進
- ・学校保健、学校給食・食育の充実
- ・生活習慣の確立
- ・主権者教育の推進
- ・持続可能な開発のための教育（ESD）の推進
- ・男女共同参画の推進
- ・環境教育の推進
- ・特別支援教育の推進
- ・不登校児童生徒への支援
- ・子供の貧困対策
- ・日本で学ぶ外国人
- ・特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援
- ・家庭教育支援の充実
- ・部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行
- ・1人1台端末の活用
- ・児童生徒の情報活用能力の育成
- ・校務DXの推進

4. 課題部会再編に向けた考え方

(1) 大枠の考え方

- ①現研究内容のどの分野にも、一定数の希望者がいるため、基本的にはどの研究内容も生かす形で新部会を編成する。
- ②部会役員のなり手が不足している中で、部会数を増やすことは現実的ではない。各部会や研究内容の統合について検討し、部会数を減らす方向で検討を進める。
- ③特に、1人1台端末の活用をはじめICT活用については、教職員の多くが研究を望む分野であることから、情報教育部会だけの取り扱いではなく、専門部会を含め、各部会の中でできる限りICTについて取り扱うことで、人数の集中を防ぐ。また、情報教育部会の研究内容を分散させる。
- ④人数の多さや移動時間を考慮し、これまで通り、南北開催を基本とすることを徹底する。

(2) 再編案

役員・全会員アンケート結果や推進準備協議会における今日的な教育課題の洗い出し・協議結果を踏まえ、現行の13部会から研究内容や部会を統合し、12部会へ再編する。

- ①SDGsの17の目標には、環境に関わるものや人権・平和・共生に関わるものもあり、その観点から環境教育部会と人権・平和部会を統合し、「人権平和環境教育部会」とする。
- ②安全・健康部会の研究内容の中に、「ウェルビーイング（教職員・子ども）」を取り入れ、名称を「学びの環境部会」とする。
- ③情報教育部会の研究内容を「ICTを活用した情報活用能力育成のカリキュラム（授業実践等）」と「情報活用能力育成のためのICT機器・アプリの整備」に絞り、「図書館の活用」を文化活動部会へ、「情報モラル・マナー」を生徒指導部会へ、「校務の情報化」を学びの環境部会へ移行する。
- ④特別支援教育部会は、研究内容は変えずに名称を「子ども支援教育部会」とする。関わって、専門部会の「障がい児教育部会」の名称を「特別支援教育部会」とする。
- ⑤生き方部会の研究内容に「地学協働（コミュニティースクール）」を追加する。
- ⑥教育課程部会の研究内容に「教職員の個別最適・協働的な学び（校内研修）」を追加する。